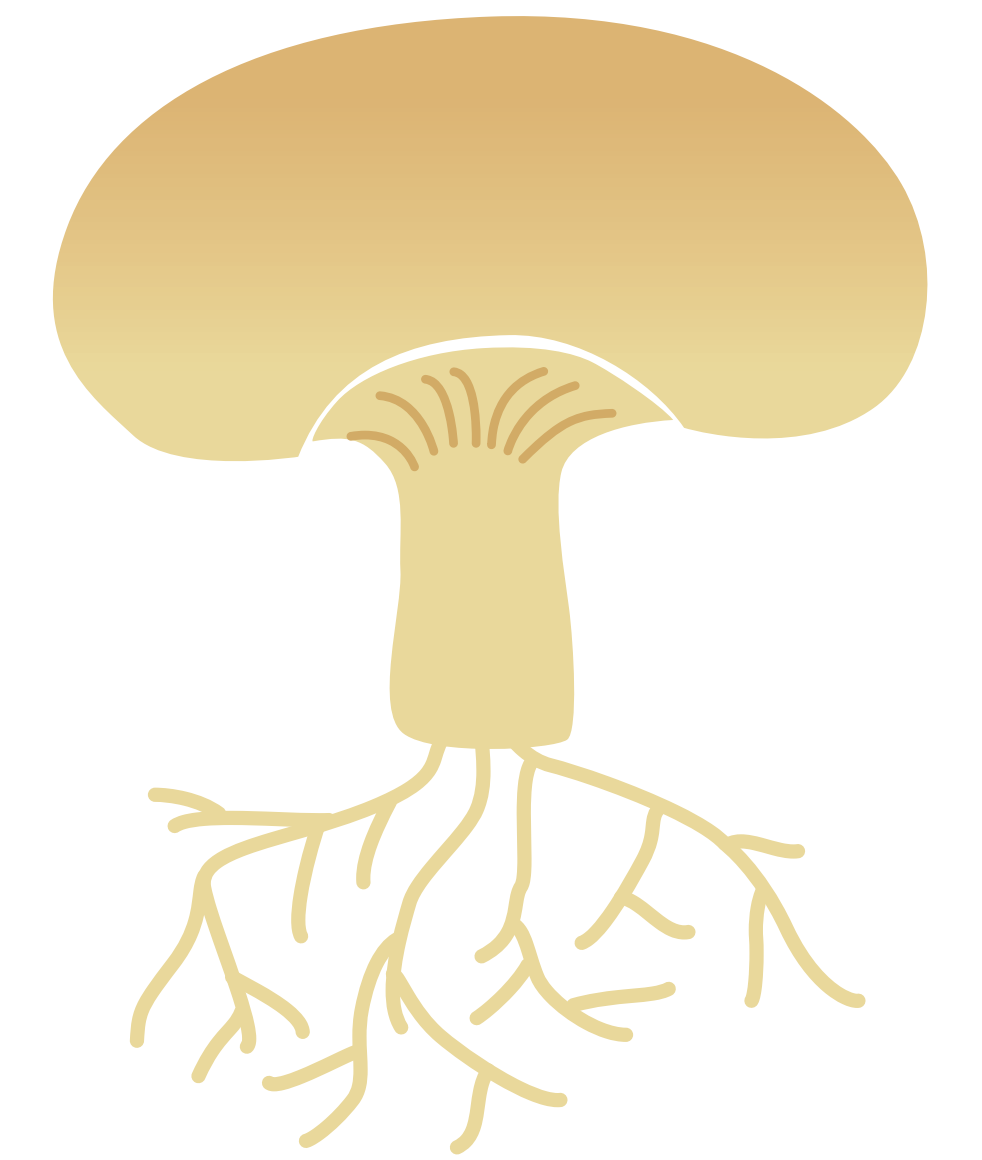
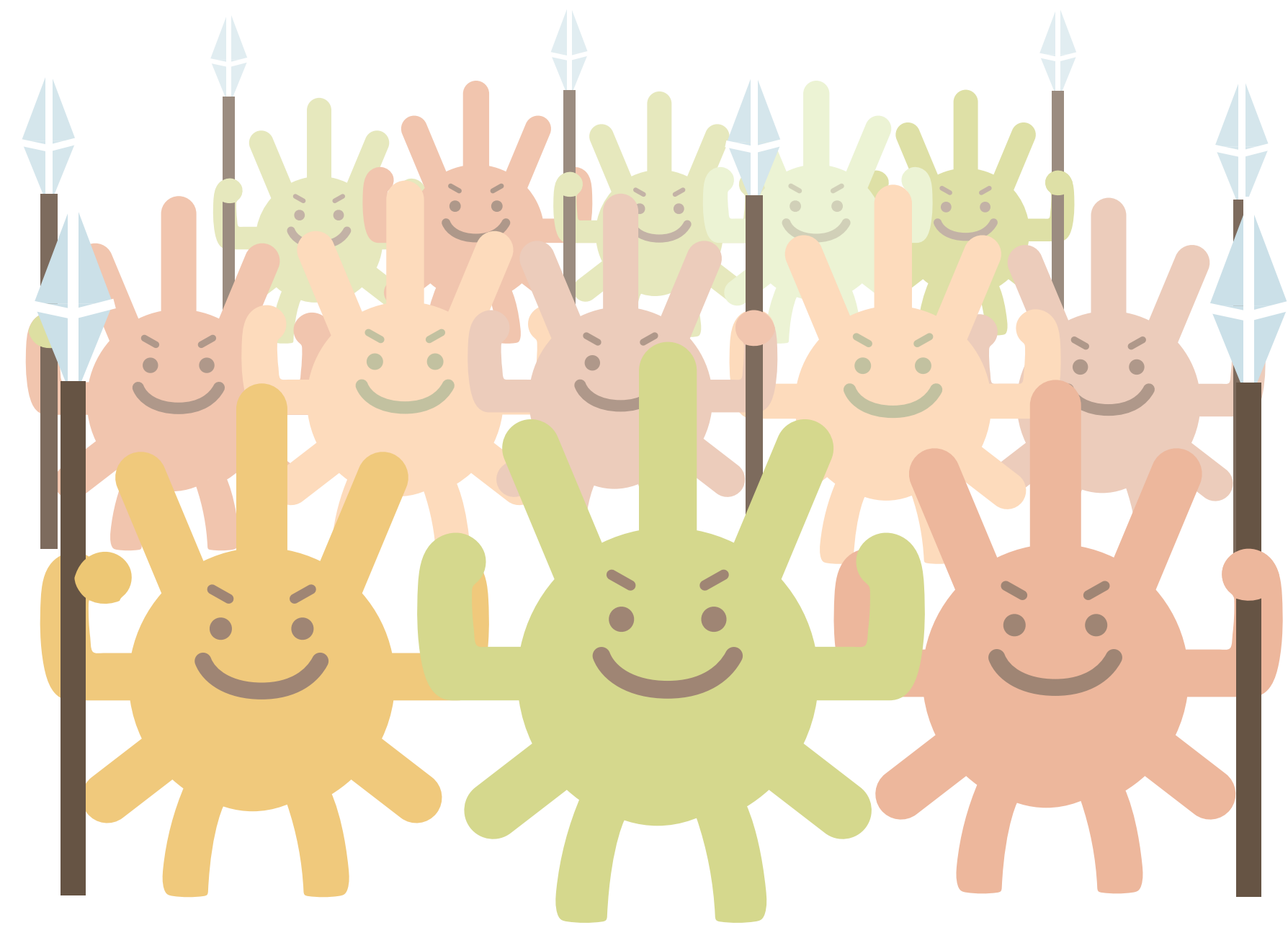


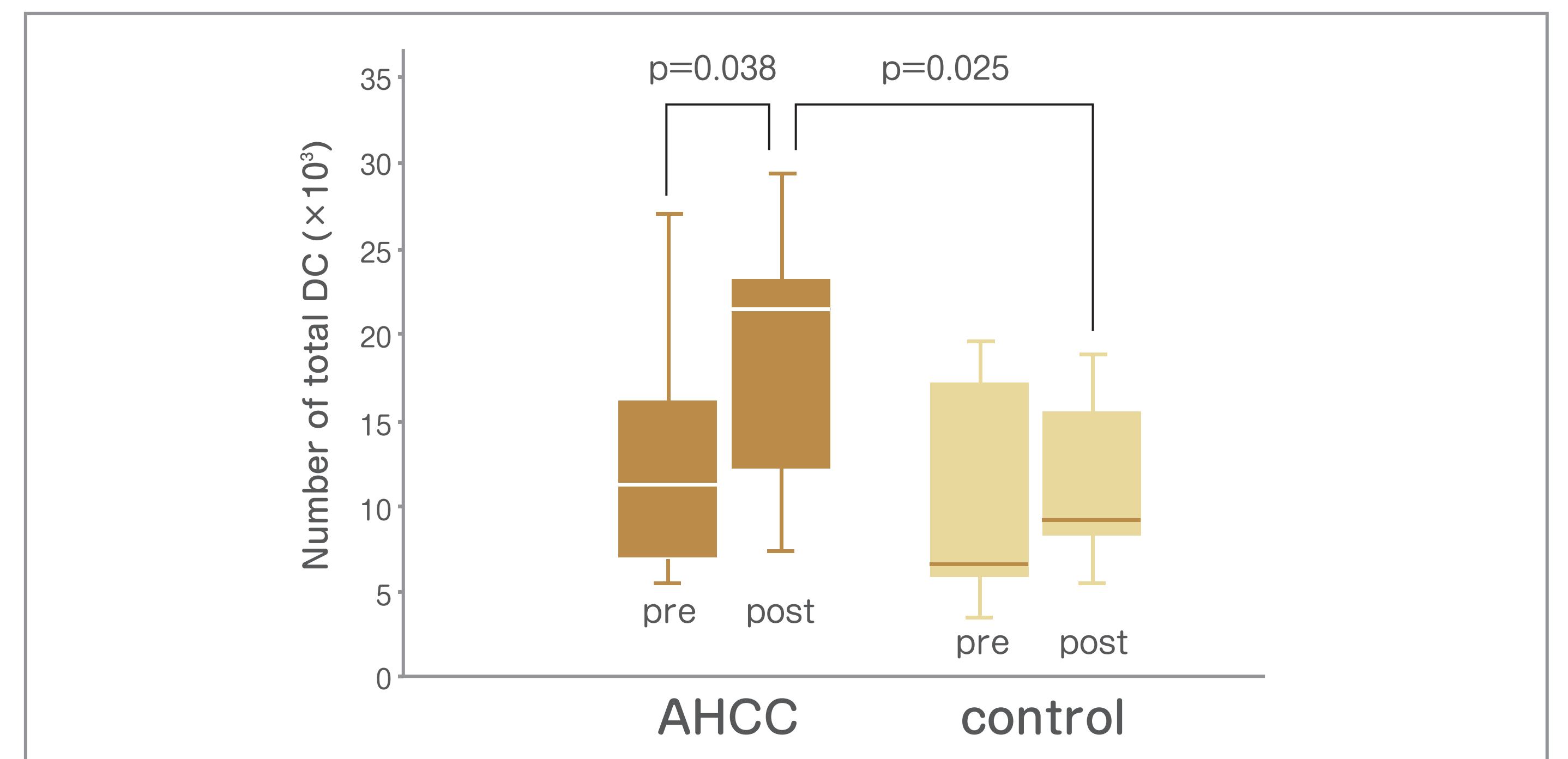
担子菌培養抽出物が、末梢血中の樹状細胞数を増加させる。



担子菌培養抽出物の摂取が末梢血中の樹状細胞数を増加させることがヒト介入試験により明らかになりました。樹状細胞は体内の異物を発見しその特徴を他の免疫細胞に伝える役割を担っており、免疫の監視役となっています。



〈図〉 担子菌培養抽出物摂取による健常人の末梢血中の樹状細胞数の変化



担子菌培養抽出物（顆粒として 3g/日）を 4 週間摂取する二重盲検プラセボ対照比較試験を実施した。試験終了時に末梢血を採取し、フローサイトメトリーにより樹状細胞数を計測しました。担子菌培養抽出物は DC1、DC2、いずれのサブセットの樹状細胞数も増加させており、感染症予防やがん治療においても望ましい免疫反応を誘導する可能性が示されました。

Nutrition and Cancer, 60(5), 643-651, 2008), N. Terakawa et al.

